

## 島の観音様と拝む心

山口県 円通寺 住職 兼重雅弘

私は、毎年山口県下関市にある六連(むつれ)島(じま)という小さな島の「花祭り」に招かれ、島の観音堂で、平穩を祈るお勤めをさせて頂いています。そのお堂は、山の斜面に立ち並ぶ集落のすぐ上であり、観音様から集落全体を見渡せるような場所にあります。島の人たちは毎朝当番を決め、仏様にご飯をお供えし拜んでいます。

ところが、昨年、梅雨の大雨による土砂崩れで「観音堂が倒壊した」と、島の人から連絡を受けました。すぐに島の人々の安否を伺うと「人も家も無事」とお聞きし、少し安心しながらも「どうかご無理をなさいませんように」とお慰めするのが精一杯でした。

その翌日、島の人から電話が入り「倒壊した観音堂で、お経をあげてほしい」と依頼されました。島の人は、「昨日、皆で話し合ったんだけど、もし観音様が土砂を受け止めてくれなかったら、集落まで土砂が流れてきて大きな被害が出ていたかもしれない。観音様が犠牲になって島民を守ってくれたんだ。だから、今度はわしらが観音様を土砂から掘り出して助けてあげよう、となってね。明日は天気もいいし、皆で作業することになってき。和尚さんに無事を祈ってほしい」と思って電話しました」と。

私は早速島に渡り、山を上がりました。土砂に押しつぶされたお

堂の姿に、私は声を失いました。しかし、そこに集まった島の人々の、やる気に満ちた目に逆に励まされ、観音様と作業の安全のため、一心にお勤めをさせて頂きました。

翌日、島の人からお礼の電話がありました。「和尚さん、土砂の中から観音様が見つかりました。泥もかぶっていなくて、きれいなお姿でした。これで、又拜むことができます。ありがとうございます」と。島の人の喜ぶ声に、私も胸が熱くなりました。

ところで、最近よく「エビデンスを示す」という言葉を聞きます。これは「根拠を示す」という意味で、何かを判断する上で大切なことです。しかし、この土砂崩れの場合は、観音様が島の人の身代わりとなって、土砂を一身に受け止めた「根拠」は、全くありません。それでも、島の人が、日頃拜んでいた観音様に「守られている」と感じ、感謝の思いで拜む心は、人びとを安らかにしてくれる尊い心なのではないでしょうか。

現在、島の観音様は、新しいお堂ができるまでお寺でお預かりしています。先日、島の女性が自宅でとれた野菜を持って拜みにこられました。女性は、三十分ほど家庭内のことを話すと、「観音様に聞いて頂いてスッキリしました」と笑顔で帰って行かれました。